



神戸天然物化学株式会社

**2020年3月期第3四半期
決算補足説明資料**

証券コード：6568

2020年2月13日



1. 2020年3月期3Q決算実績



2020/3期3Q決算におけるポイント

1

3Q累計では対前年で減収減益ながら、3Qのみでは前年比増収増益を回復。スロースタートの挽回進む

2

実績は想定範囲内、通期見通しも従来想定据置き。4Qのみの経常利益率は実力ベースで25%を予想

3

分野別には医薬分野で開発ステージ案件拡大を受け好調に推移。バイオも堅調を維持。生産能力拡大で需要の取り込み体制強化を急ぐ



1-1. 2020年3月期第3四半期 経営成績

- 対前年では減収減益ながら、従来想定の範囲内。スロースタートの影響も暫時緩和
- 機材分野の減収は一部商品の端境期入りが影響。バイオ分野では期ズレの解消進むも影響の完全解消には至らず。一方、医薬分野では開発ステージ案件拡大を受け増収

経営成績の推移

(百万円)	2018/3期	2019/3期		2020/3期		前年比較	2020/3期 進捗率
		3Q累計	通期	3Q累計	通期見通し		
売上高	6,312	4,426	6,290	4,030	6,400	△9.0%	63%
機能材料分野	2,962	2,122	2,724	1,652	2,550	△22.2%	65%
医薬分野	2,881	1,476	2,355	1,586	2,700	+7.5%	59%
バイオ分野	468	828	1,210	791	1,150	△4.4%	69%
営業利益	1,222	782	1,240	331	680	△57.6%	49%
経常利益	1,208	812	1,285	385	730	△52.6%	53%
経常利益率	19.1%	18.4%	20.4%	9.6%	11.4%	△8.8pp	—
当期純利益	900	601	936	327	530	△45.6%	62%
EBITDA*	2,004	1,330	1,995	905	1,500	△32.0%	60%
EBITDAマージン*	31.7%	30.1%	31.7%	22.5%	23.4%	△7.6pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

神戸天然物化学株式会社



1-2. 四半期別経営成績推移

- 1Qを底に改善進捗。3Qのみでは前年比増収増益を回復。スロースタートの挽回進む
- 3Qの分野別推移は、期ずれ解消したバイオ分野が急伸。医薬分野も2Qの反動は発生したものの、引き続き需要は好調。一方、機材分野は製品端境期の影響継続

	2018/3期				2019/3期				2020/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,606	1,278	1,755	1,671	1,405	1,518	1,502	1,864	1,012	1,450	1,567
機能材料	710	755	605	891	812	694	615	601	537	552	561
医薬	866	439	945	630	355	552	567	879	226	763	597
バイオ	29	84	205	149	237	271	318	382	249	134	408
営業利益	388	239	443	150	325	188	268	457	△20	92	260
経常利益	405	246	434	123	348	197	265	472	1	102	281
経常利益率	25.2%	19.3%	24.7%	7.4%	24.8%	13.0%	17.7%	25.4%	0.2%	7.1%	18.0%
当期純利益	284	162	271	183	255	151	194	334	△3	137	193
EBITDA*	573	431	643	356	498	371	460	664	164	279	461
EBITDA マージン*	35.7%	33.7%	36.7%	21.3%	35.5%	24.5%	30.6%	35.7%	16.2%	19.3%	29.5%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



1-3. 2020年3月期第3四半期 財政状態

- 自己資本比率は81.1%。財務安全性に変化ないも、投資機会増で4期ぶりに借入増
- 在庫増は主として医薬分野の製品群。これらは4Qには出荷の見通し

財政状態の推移

(百万円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期 3Q	前期末差異
流動資産	7,124	4,774	3,961	△812
現預金	5,413	3,072	1,325	△1,746
棚卸資産	975	1,097	1,713	+616
その他	735	605	922	+317
固定資産	5,563	7,227	7,940	+713
総資産	12,688	12,002	11,902	△99
負債	3,951	2,547	2,251	△296
有利子負債	2,256	978	1,387	+409
その他	1,695	1,569	863	△706
純資産	8,736	9,454	9,651	+196
負債純資産合計	12,688	12,002	11,902	△99

未払費用、設備費用、税金支払、配当支払、などに充当

バイオ分野の期ズレ解消進むも、受注堅調な医薬分野で引続き増加

設備投資額：15.8億円
減価償却費：5.7億円

投資負担増に対応
有利子負債増は2016/3期以来4期ぶり

設備費用/税金支払い進行により減少

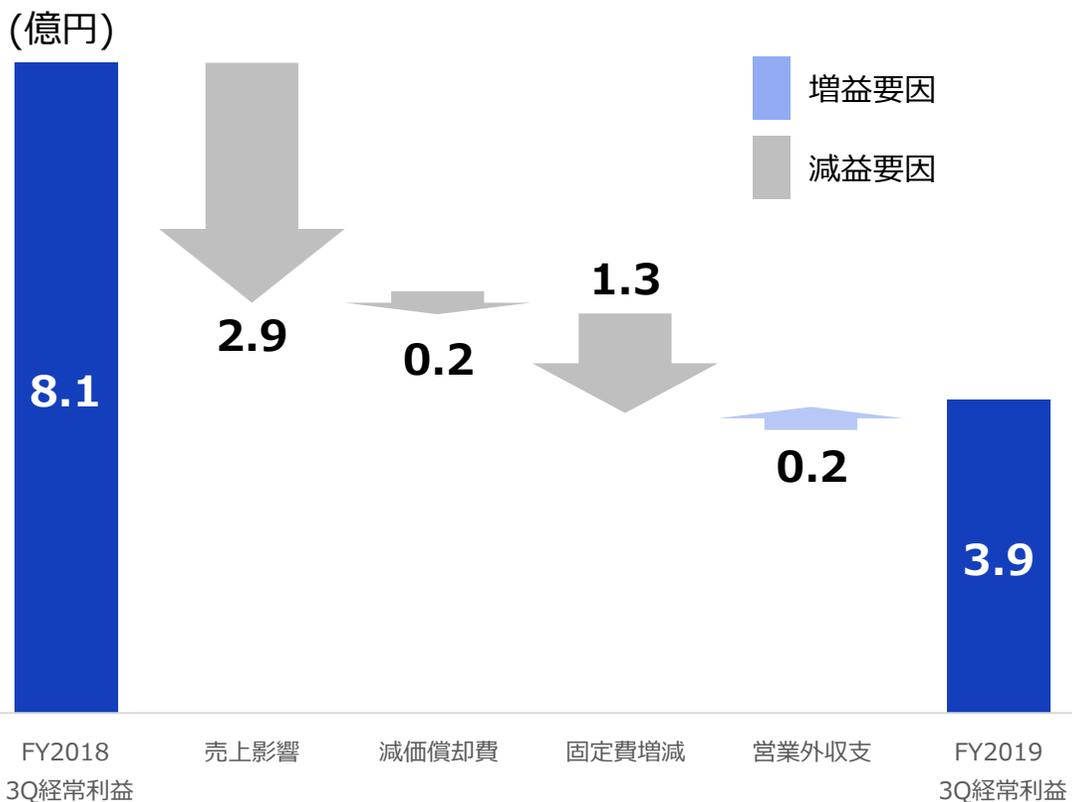
自己資本比率81.1%



1-4. 2020年3月期第3四半期 累計経常利益増減要因分析

- 前年比では機能材料、バイオの2分野の減収、および製品構成の変化が影響。医薬分野の増収はあるも、マイナス要因の吸収には至らず
- 業容拡大や本社移転による管理コスト増も利益圧迫要因として発生

2020年3月期_第3四半期 経常利益の増減要因



- 減収効果 △2.9億円
 機能材料分野：高採算プロジェクト一巡
 医薬分野：開発ステージ案件増加による増収
 バイオ分野：開発ステージ製品の期ずれ解消
- 減価償却費の増加 △0.2億円
 3Q累計減価償却費 5.7億円
 主な設備投資実績
 原薬精製棟 (建設中)
 機能材料分野乾燥棟 (建設中)
 新本社・研究所改装
- 固定費等の増加 △1.3億円
 人件費増 △0.7億円
- 営業外収支の改善 +0.2億円

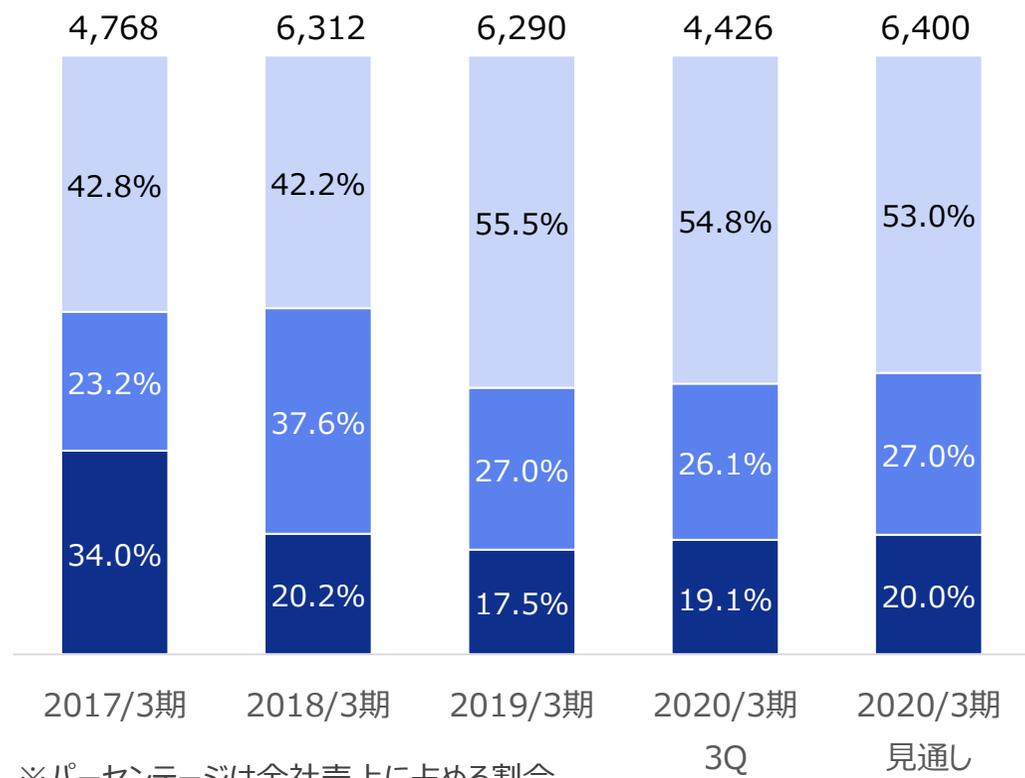


1-5. ステージ別売上高比率

- 2020年3月期3Qは、研究・開発ステージが伸長し、累計では通期見通しに接近
- 数量効果の期待できる量産ステージの次世代製品育成に向けて、研究・開発ステージの強化に注力。一方、量産ステージでは生産能力の拡大を急ぐ

ステージ別売上割合推移

(百万円) ■ 研究 ■ 開発 ■ 量産



- 機能材料分野
予定通りに量産ステージを中心に展開
- 医薬分野
開発ステージは計画通りに進捗
- バイオ分野
期ズレ解消に伴い、概ね予定通りの進捗

※パーセンテージは全社売上に占める割合



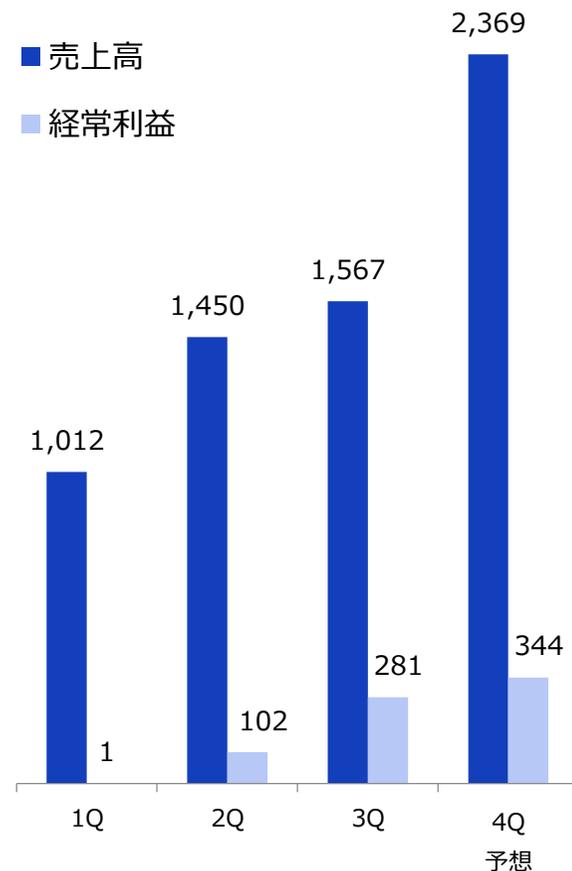
2. 2020年3月期通期見通し



2-1. 2020年3月期 業績見通し

- 通期見通しは従来見通しを据置き。前年比では1.4%増収、40%経常減益を予想
- 4Qのみでは、3Q比で8億円の増収、経常利益は微増を想定
- 医薬分野で製品出荷が集中する他、機能材料分野でも需要獲得活動の成果を見込む

	2020/3期				2020/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q見通し	通期見通し
売上高	1,012	1,450	1,567	2,369	6,400
前年比	△27.0%	△4.5%	+4.3%	+27.1%	+1.4%
機能材料	537	552	561	897	2,550
医薬	226	763	597	1,113	2,700
バイオ	249	134	408	358	1,150
営業利益	△20	92	260	348	680
経常利益	1	102	281	344	730
前年比	△99.6%	△48.2%	18.0%	△27.1%	△39.6%
当期純利益	△3	137	193	202	530
EBITDA*	164	279	461	594	1,500
EBITDAマージン*	16.2%	19.3%	29.5%	25.1%	23.4%



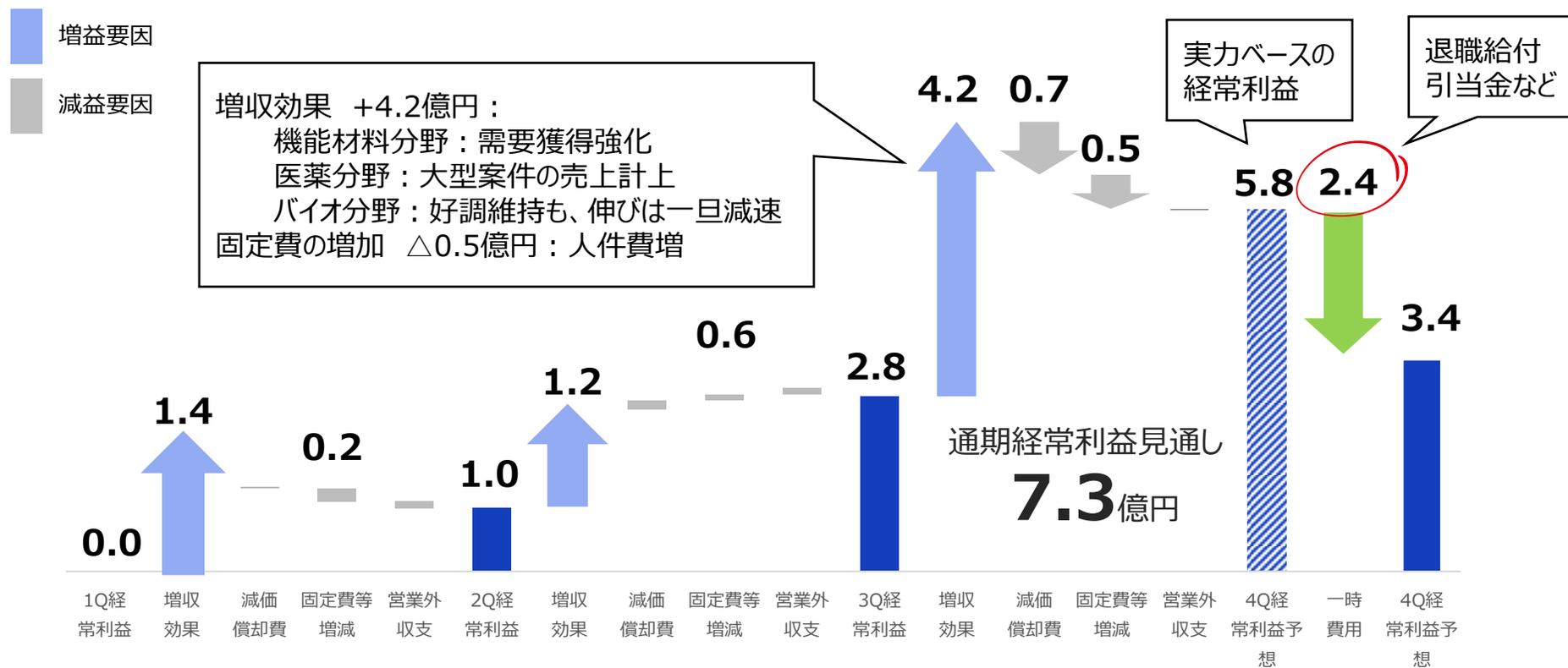
* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



2-2. 2020年3月期四半期別経常利益増減要因分析

- 4Qは対3Qで増収効果が貢献。退職給付引当金計上といった一時費用や償却費増などの影響を吸収し、3Q水準の経常利益を確保する見通し
- 一時費用の影響を除いた「実力ベースの経常利益」は4Qのみで5.8億円。この基準での予想経常利益率は24.7%に到達し、高い収益力の着実な回復を実現する計画

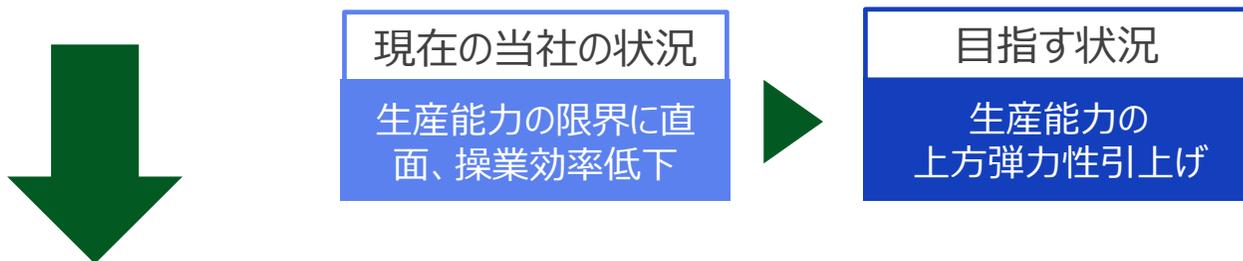
2020年3月期 四半期別経常利益の増減要因（見通し）





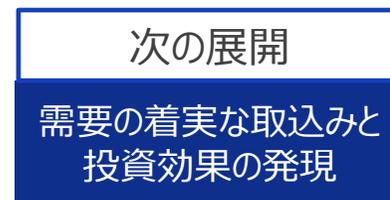
2020/3期 「一旦屈む」決断を選択

旺盛な分業需要な取込みに向け、生産能力増強に着手
それに伴い、設備投資の加速、人員確保のための施策を実施



2021/3期 「収益力の巡航速度回復」へ

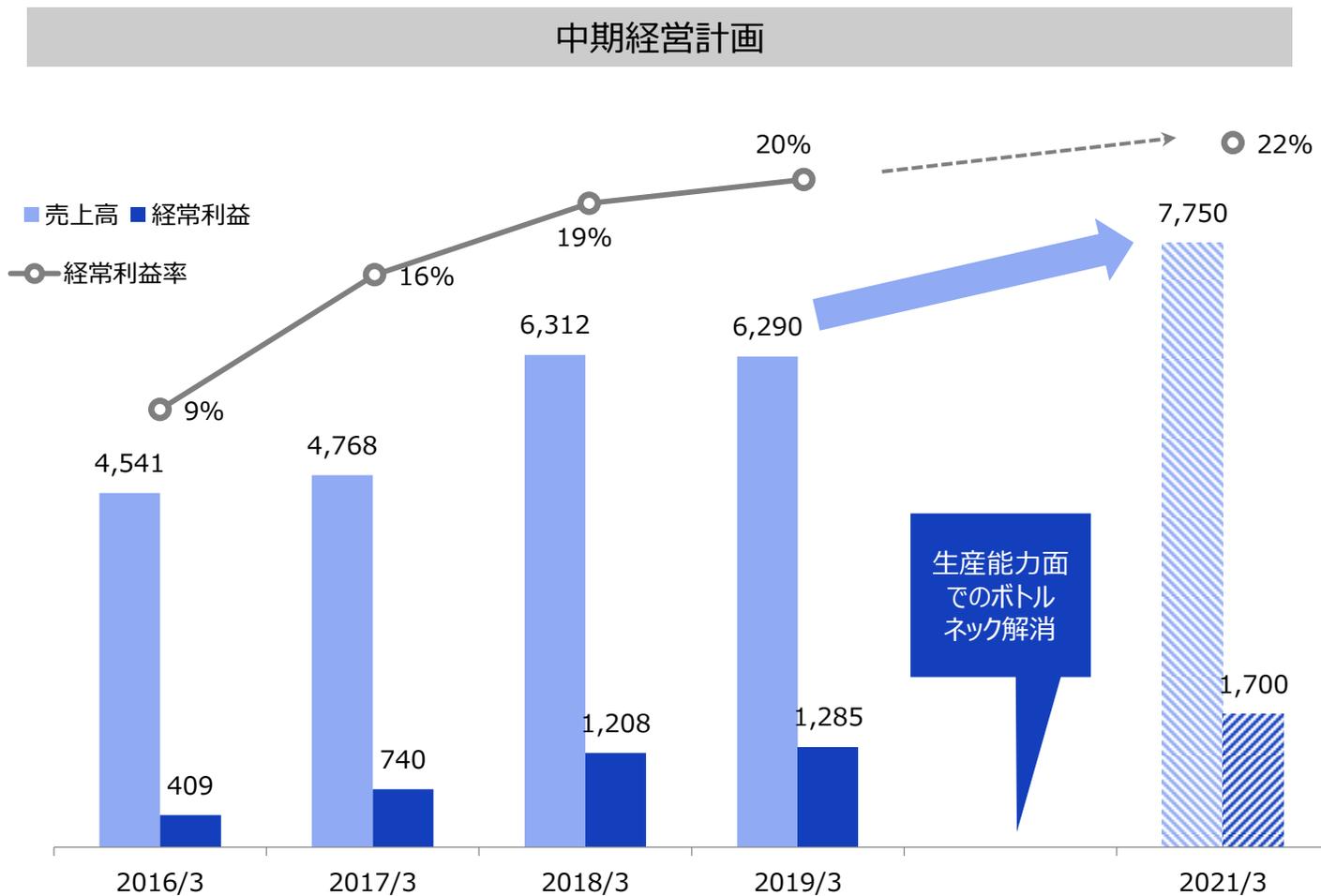
設備投資は若干ずれ込む可能性あるも、ハード面での準備を完了
今後は、需要の確実な取り込みの実現へ注力
損益的にも、高い収益力を通期で発揮できる
体制確立を急ぐ





2-4. 中期展望

- 2021/3期の売上77億円程度、経常利益17億円程度の展望は現時点で見直さず
- 展望実現に向けて、生産能力拡充の加速によりボトルネック解消を急ぐ





3. 設備投資と研究開発

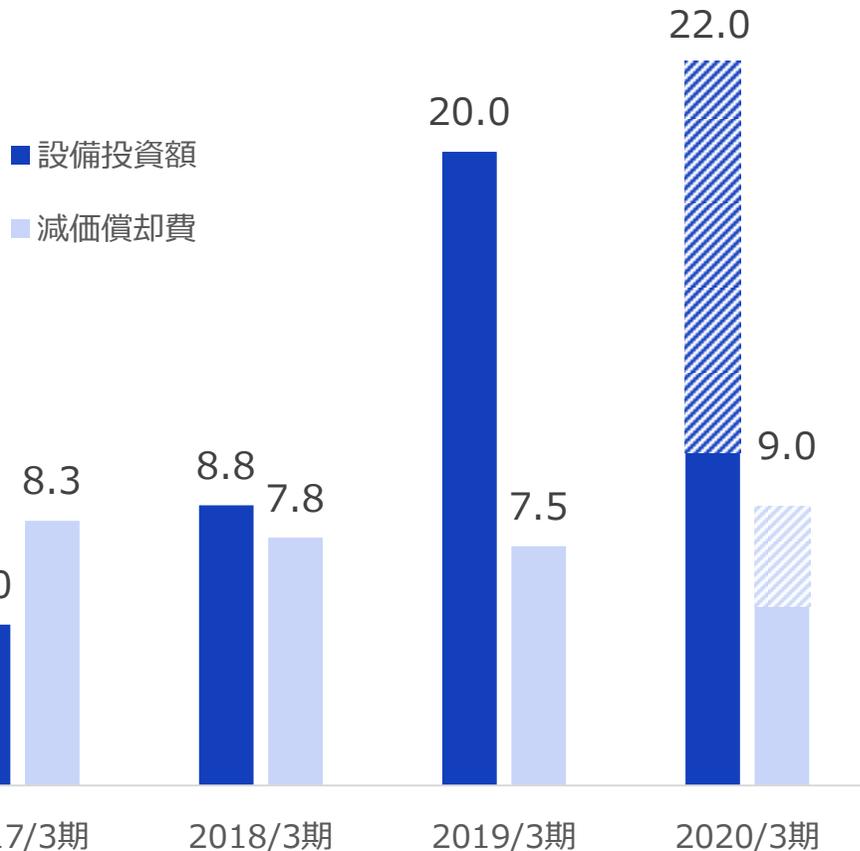


3-1. 設備投資動向

- 前期より進めていた「生産ボトルネック」解消に向けての積極投資は当期がピーク
- 来期以降の投資は外部環境を見極め、量産ステージを中心に投資する方針

設備投資と減価償却費の推移

(億円)



<2019/3期の主な設備投資>

- 出雲工場キロラボ工場及び研究棟取得
- 新研究所・本社用土地建物取得

<2020/3期の主な設備投資>

- 医薬原薬精製棟建設
- 機能材料分野製品乾燥棟
- その他量産ステージ増加対応
- 設備検収の一部遅れにより投資想定減額
従来計画 28億円 → 修正計画 22億円

<2021/3期の設備投資方針>

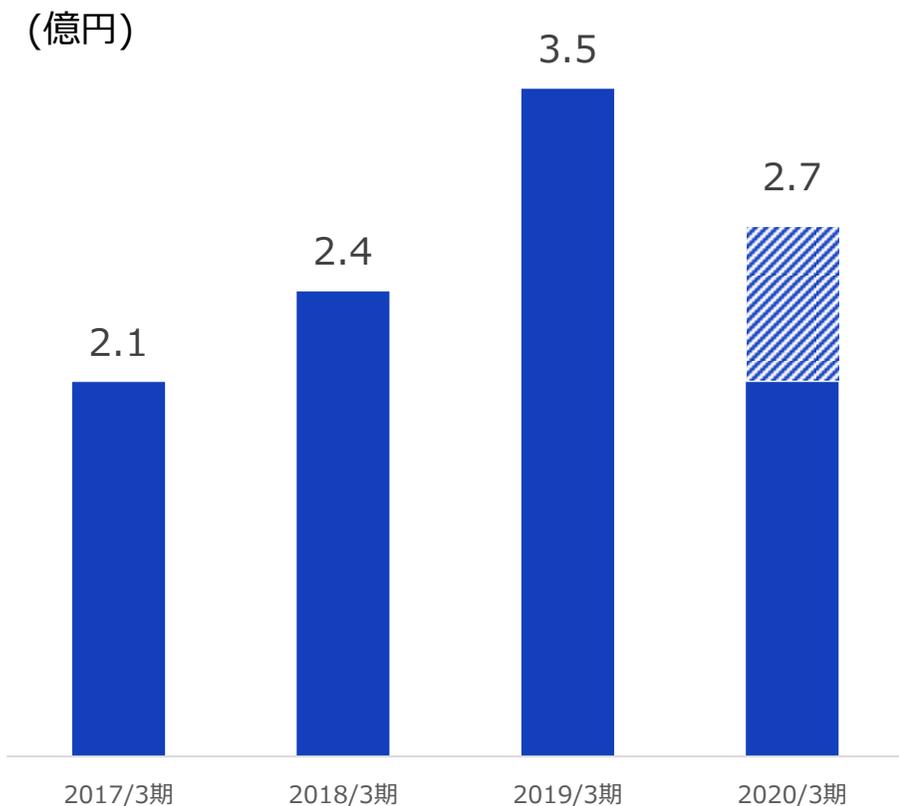
- 2020/3期検収のずれ込み分を計上
- 量産案件の受注見込を勘案して投資判断



3-2. R&D動向

- 長期的な競争力の源泉であるR&Dへの投資も積極的に継続する計画
- ただし、2020/3期は能力増強を優先した結果、前年水準をやや下回る見通し。ニーズあれば上乘せの可能性も

研究開発費の推移



<計画>

従来計画 3.3億円 → 修正計画 2.7億円

<中分子医薬>

- 次世代産業である中分子医薬(糖鎖、ペプチド、核酸)の技術開発

<低分子医薬>

- 低分子医薬の研究を実施し、創薬会社へのライセンスアウト、さらに最新技術も開発

<バイオ分野、機能材料分野>

- バイオを利用した製造技術の開発
- 企業との共同研究による新素材の製造技術の開発



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-955-9900 (代表)
Knc-ir@kncweb.co.jp